



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



祈りについての学びと堅信式

恒例の北薩信徒大会に180人集う

5月21日(日)午後、毎年恒例の「カトリック北薩信徒大会」が伊佐市の大口明光学園体育館で開かれた。大会には180人余りの信徒が駆けつけ、講演で祈りについて学び、その後の司教ミサで大会の恵みに感謝した。

「祈りについての学び」と定義づけた上で、祈りは「独り言」ではなく「神との会話」だと述べた。

レデンプトール会が担当してきた北薩地区では、毎年、信徒の研修と親睦を兼ねた「信徒大会」を開催している。今年の研修には、ホセ・デルコス修道士(ラ・サール学園理事長)を招き、「祈り」(主よ、私たちに祈りを教えてください)について学んだ。

祈りについて解説を続けた講師は、イエスに祈りの仕方について教える願った弟子たちについて、「弟子たちはイエスと同じように神との関係をもちたかった」と解説。そしてイエスから教えてもらった「主の祈り」をテンプレートにして分析しながら、祈りには①賛美と礼拝②祈りの運動、③神の意志の地上での実現④人間の努力、⑤すべての人の要求の満たし⑥分かち合い、⑦私たちの罪の赦し⑧ゆるすことへ伴う痛み、⑨誘惑に打ち勝つ恵みを願うの5つから構成されている。この構成をもとに自分なりの祈りを自分なりのやり方で唱えることで神は喜ばれるとした。ただ講師は「祈るときには、祈りを信じることに神と一緒にいることの認識。神の存在を



思い起こすことの大切さ。そして自分自身の決心が大切」だとメッセージを送った。講話のあとは、堅信式も

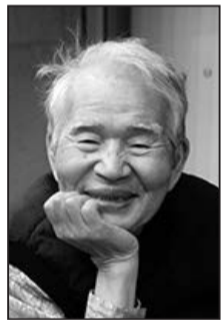
教区主催ドイツ巡礼を終える

レデンプトール会への感謝の旅

5月11日(木)から17日(水)まで、鹿兒島教区主催でレデンプトール会感謝のドイツ巡礼が行われた。

これは64年に亘り教区の宣教司牧に尽力しているレデンプトール会に対する感謝を表すためのもの。高齢等で帰国されたレヒナ師、フリチエル師が帰天する中、ハヌス師がまだお元気

組み込まれたミサがささげられた。説教した郡山司教は、この日の福音の箇所からイエスの弟子たちに対する思いを述べ、その上で堅信の秘跡を受けることは「神の心を分かろうとする大人になること」と受堅者たちを励ました。



トマス松森孝郎神父帰天

紆余曲折の人生を笑顔で乗り越えて

特別養護老人ホーム「めぐみの園」(奄美市)に入所していた教区司祭トマス松森孝郎神父が6月2日(金)午前9時55分、入院先の県立大島病院で膿胸のため帰天した。84歳だった。

松森神父は1932年6月22日、岡山県は金光町に父・藏十郎さんと母・静子さんの四人の子どもの三番目として誕生。しかし生まれて7年の間に両親を亡くし、赤沢家の養子に。その後、赤沢家の事情で大陸へ移住し、北京で4年間を送った。日本に引き揚げてからは故郷・金光町で中学、高校生活を送った。

しかし家庭の事情で高校を中退、紡績会社に勤めた。受洗したのは20歳。その後、赤沢の父が再婚したため松森姓へ戻り、東京の大神学院で働いた。当時夜学へ通っていたが、肺炎を患い単位を取ることができなかつた。その後、司祭を目指し名古屋の小神学校に入學、8歳も若い高校生と学び、その後、上智大学へ進学。しかし病気がちだったため、所属していた広島教区では叙階されず、長崎の小神学校で教師となった。鹿兒島との縁ができたのは東京で一

に学んだクンツ神父を通してだった。1971年に司祭に叙階された松森神父は、その後、ザビエル教会、研修センター、紫原教会、徳之島などで働いた。2006年からはザビエル教会助任司祭、その後本部付きとなったが、持病の悪化などから2013年に引退し、特別養護老人ホーム「めぐみの園」に入所していた。松森神父の葬儀は、6月5日(月)ザビエル教会でしめやかに執り行われ、叙階までの苦勞を知る竹山神父が弔辞を述べ、神父の魂を神のもとに送った。

に建設した収容所)見学、同地にあるカルメル会修道院で日本人シスターと面会、同会の昼の祈りに参加。15日、午前、ノイシュバンシュタイン城観光、午後、ヴィース教会、ロッテンプーフ教会訪問。16日、ミュンヘン市内観光。聖母教会、聖ミヒャエル教会訪問。17日、帰国。

第26回夏期集中講座

鹿兒島教区主催

テーマ: 私たちは「信仰宣言」で何を表明するのか
期日: 8月21日(月)~25日(金)
午前の部10時~12時/午後の部19時~21時
講師: 竹山 昭(ザビエル教会主任司祭)
会場: ザビエル教会1Fホール
受講料: 受講日数にかかわらず、500円
申込先: 鹿兒島教区本部「夏期集中講座」係まで。
TEL099-226-5100 fax099-225-0440
※受講当日も受け付けます。

講師から
「信仰の基礎養成の機会にと始めたこの講座もすでに26回目。現講師が受け継いでから25年目、最初の主題に戻ってみようと思います。資料を用意します。受講にあたっては新約聖書と筆記用具をご持参ください。」

新しい歩みを始める記念祭

ザビエル祭の歴史を振り返る

ザビエル上陸記念祭の歩み

1949年5月31日
「ザビエル上陸400周年記念式」と「ザビエル教会献堂式」が教皇特使N・ギルロイ枢機卿(シドニーの司教)の陪席のもとオルチイ司教(スペイン・トウイの司教)マクドナルド司教(ニューヨークの補佐司教)と共に盛大に行われた。

当時の朝日新聞によると「戦前戦後を通して、極東でいまだかつて見る事の出来なかつた盛儀」、また、南日本新聞は「このあたりは聖ザビエルが度々歩いてキリストの教えを説いたゆかりの地、奇跡の聖腕(ザビエルの右腕)を市民と共に迎えることは感激に堪えない」との歓迎の言葉が告げられている。

当時のザビエル教会では七田和二郎神父を中心にザビエル上陸を記念して青年を中心としてザビエル像を担いで城山に登って上陸記念行った。1952年からは聖母の被昇天祭のミサ後、ザビエル上陸記念祭を行ようになった。

1975年8月15日
第1回ザビエル上陸記念祭、この年は「和解と刷新」の年・聖年に当たり、長崎の信徒より、ザビエルの上陸の地点からザビエル教会まで徒歩で巡礼したいとの申し出があり、それを受けけるかたちで鹿兒島教区

として、年来の懸案であったザビエル上陸記念祭を行うことになった。
祇園之洲公園に信徒450余人が集まり聖ザビエルの遺徳を称えて糸永司教を中心に16人の司祭による共同ミサが行われた。
ミサの中で七田和二郎神父はザビエルについて「ザビエルの生涯は、インドから鹿兒島までの船旅のようにたびたび大きな嵐にぶつかったが主のみことばによって支えられ貫かれた」と語り、聖師への賛美と懇願のお祈りで説教を結んだ。

1978年4月23日
ザビエル上陸記念碑除幕式と鹿兒島市への贈呈式が行われた。
知事、市長、駐日バチカ

ン大使、九州地区の各司教(里脇浅次郎長崎大司教、平田三郎福岡司教、平山高明大分司教)の方々が出席した。レリーフはルイ・フランセン師作、ブロンズ像は吉野毅氏によるものである。また、碑は鹿兒島教区が計画設置し、鹿兒島市へ寄贈された。
序幕式に先立ち駐日バチカン大使司式によるザビエル顕彰ミサが行われた当日、朝から雨が降り続き、時折、ひとしきり強まることもあった。このような天候の下、開催されたが遠路はるばる長崎からバスを仕立てて参加した巡礼団をはじめ教区内外からおよそ1200人の参加者があつた。

ザビエル上陸記念碑

祇園之洲
ザビエル上陸記念碑は、鹿兒島市祇園之洲公園に鹿兒島教区創立50周年記念事業として1978年4月、ルイ・フランセン師(ベルギー人)の設計により建立された。
この記念碑の前に立つ時、ザビエルを鹿兒島に案内して来たヤジローのことが自然と思ひ浮かぶ。ヤジローは1546年1月、山川港を出帆したジャコブ・アルバレスの船でマラッカに向かった。そこでザビエルはヤジローと出会い日本人の感性に興味を持ち、日本への宣教を考え始める。その後、ヤジローはゴアへ行きコスメ・デ・トレース神父から教えを受け、1548年5月20日、ゴア大聖堂で司教ヒラ・ジョアン・デ・アルブケルケからパウロ・デ・サンタフェという霊名で洗礼を授けられた。
ザビエルはヤジローと共に1549年6月24日(洗礼者聖ヨハネの祝日)にマラッカを出帆し、同年8月15日、聖母の被昇天の大祝日に鹿兒島の港の稲荷川河口に上陸した。

子ども大会のお知らせ

8月2(水)～4日(金)

場所: 司教館(鹿兒島市唐湊)

対象: 小学生

※申し込みに関する詳細は後日、小教区に連絡

「未知の人同士、性質を異にする国民同志が出会い、異なる文化が交流し合う」ということは、一つの驚きであり、ある意味では一つの奇跡であろう。力による支配や交易だけでは、互いに利用し合うことはできない。真の出会いは生まれない。出会いは愛とか、希望とか、苦悩とかいう最も尊いものを互いに分かち合うことよって初めて可能となるからである。ブロンズ像はすべてを神のみに委託して、魂の救いのために奔走するザビエルである。レリーフの中心になつてい

る。また、碑は鹿兒島教区が計画設置し、鹿兒島市へ寄贈された。
序幕式に先立ち駐日バチカン大使司式によるザビエル顕彰ミサが行われた当日、朝から雨が降り続き、時折、ひとしきり強まることもあった。このような天候の下、開催されたが遠路はるばる長崎からバスを仕立てて参加した巡礼団をはじめ教区内外からおよそ1200人の参加者があつた。

た。
1999年10月11日
ザビエル渡来450周年記念荘厳ミサが鹿兒島アリーナで行われた。参加者は、教区内はもとより全国各地からまた、海外から合わせて5600人あまりの信者や市民だった。
教皇特使エドムンド・シヨール枢機卿、駐日ヴチカン大使エンブローズ・デ・パオリ大司教、ローマ聖座フランセン師は除幕式の挨拶で次のように語つてい

る。また、碑は鹿兒島教区が計画設置し、鹿兒島市へ寄贈された。
序幕式に先立ち駐日バチカン大使司式によるザビエル顕彰ミサが行われた当日、朝から雨が降り続き、時折、ひとしきり強まることもあった。このような天候の下、開催されたが遠路はるばる長崎からバスを仕立てて参加した巡礼団をはじめ教区内外からおよそ1200人の参加者があつた。

た。
1999年10月11日
ザビエル渡来450周年記念荘厳ミサが鹿兒島アリーナで行われた。参加者は、教区内はもとより全国各地からまた、海外から合わせて5600人あまりの信者や市民だった。
教皇特使エドムンド・シヨール枢機卿、駐日ヴチカン大使エンブローズ・デ・パオリ大司教、ローマ聖座フランセン師は除幕式の挨拶で次のように語つてい

る。また、碑は鹿兒島教区が計画設置し、鹿兒島市へ寄贈された。
序幕式に先立ち駐日バチカン大使司式によるザビエル顕彰ミサが行われた当日、朝から雨が降り続き、時折、ひとしきり強まることもあった。このような天候の下、開催されたが遠路はるばる長崎からバスを仕立てて参加した巡礼団をはじめ教区内外からおよそ1200人の参加者があつた。

第7回諸宗教対話担当者養成コース

主催: 「かけ橋—諸宗教対話を進める会」
日時: 10月23日(月)～28日(土)
場所: 真命山(熊本県和水町蜻浦1391の7)
会費: 50,000円 定数: 10人(予約順)
締切: 8月31日 連絡先: F・ソットコルノラ神父
TEL0968(85)3100 FAX: 0968(85)3186
mail: shinmeizan@gmail.com

女性の役割と生き方を学ぶ

奄美カトリック女性連盟が総会と研修会

奄美連総会は去る6月11日(日)三位一体の主日に、名瀬浦上教会で開催され、奄美の七つの小教区から浦上教会聖堂がいつぱいになるほどの参加者があり、盛会のうちに議事を進めることができました。2016年度の活動報告、決算報告、2017年度の活動計画、予算案などを順次承認してもらいました。

またこの総会会場で私たちの上部団体である「日カ連」の「いのちを守る運動基金」の中から、「ゆずり葉の郷」へ「奄美連」を通じて支援金を送っており、今年もまたその支援金を伝達することができ、「ゆずり葉の郷」からは感謝の意が表されました。

「日カ連」の活動は、「家庭」「召命」「いのち」を二本柱にしており、「いのち」を守る運動基金は平成11年4月25日の沖繩大会で設立され、翌12



年大分大会からこの運動が始められました。様々なバリエーションによって「いのち」が軽んじられていた昨今、「ゆずり葉の郷」はDVなどによって悩む人達を人道的に救済している組織で、奄美連から日カ連に推薦して支援が決定したものです。

午前の部が終わり昼食を挟んで昼の部。本年の講演は郡山司教様をお願い申し上げ「要として生きる」と題してお話をいただきました。

司教様は女性の役割を漢字の成り立ちから解いていかれ、婦人は祭事を行う神聖な場所を清める大切な役割を果たしている者のことと言われ、「神との調和」「自然との調和」「人と人との調和」を保つための「要」でなくてはならないと解いてくださいました。

洗礼を受けた者として、品の良い信仰に生き、人の悪口、陰口を口にすることなく、神様との関係を大切にして祈るとき「嘆きの祈り」「賛美の祈り」「嘆願の祈り」として受け入れてもらえると、私たちが日々生きていく上で指針となることばかりでした。

最後はマリア様の口癖「おことば通りになりますように」を胸に留めて、マリア様に倣って生きるならど

のような問題も神様が修復してくださると、神様ありがとうと素直に喜んで生き

なさいと結ばれました。司教様司式によるミサは奄美連の皆さんだけでなく多くの信徒の参加もあり、神様に祝福され、会員の皆さんの喜びに支えられた総会を終えることができました。と感謝します。

(奄美カトリック女性連盟 事務局 久保正子)

神の心になう生き方目指す

教区修道女連盟が総会と研修会

教区修道女連盟は6月4日(日)、教区本部で今年度の総会と研修会を開催した。出席したのは本土地区(種子島を含む)を中心に約60人の修道女たち。午前10時から始められた総会では事業報告、会計報告がなされたほか役員改選があつた。

それによると新会長にはレデンプトール宣教師修道女のエルハルド・ワルトラウド修道女が、また副会長に竹口のみ子修道女(シヨファイユの幼きイエズス修道女会)が就任。

その後行われた研修会(テーマ「回勅 ラウダー

ト・シ」ともに暮らす家を大切に」には、講師として嘉松宏樹神父(長崎教区)が招かれた。

今年の3月まで中央協議会で働いた講師は、神が人間に預けたこの地球のよいものを人間が無責任かつむやみに使ったため、この星が傷つき悲鳴を上げていることに目を向けさせ、回心と創造主である神への賛美と祈りへと導いた。また回勅「ラウダー・ト・シ」が環境問題だけでなく、政治、経済から道徳、文化、日常生活など人間が生きるあらゆる分野とつながっていると強調し、新しい生き方への指針を示した。

研修会後は、会場をザビエル教会聖堂に移し、ミサをささげて修道女たちの今後の働きのために祈り合い、会を締めくくった。

司教執務室便り

聖母の意向を生きる



司教叙階後、国内をはじめいろいろな国から様々な機関誌が届くようになった。お隣のフィリピンからはワールドミッションという月刊誌が届く。最近届いた七月号の特集はファチマでの聖母出現百周年。

一八一七年五月十三日、マリア様がヤシント、フランシスコ、ルチアという三人の牧童に出現された。メッセージの一つがロシアの回心への祈り。マリア様は「教皇が司教たちと共に私の心にロシアを奉獻するように」告げられた。ネットには次の記事もあった。ロザリオを唱えるときは、一連ごとに「ああイエスよ、私たちの罪を許してください。私たちを地獄の火から守ってください。またすべての霊魂ことに主の御憐れみが必要とする霊魂を天国に導いてください」と言うように唱えられたという。子供の頃、文語体で唱えていたが、また始めてみたいと思

ところで、一九四二年ピオ十二世は聖母の要請に基づき、教会と全人類を聖母の汚れないみこころに奉獻し、一九五二年にはロシアの人々を奉獻。ヨハネ・パウロ二世は一九八四年世界とロシアを聖母に奉獻された。その五年後の一九八九年、あのベルリンの壁が崩壊し、さらにその二年後の一九九一年にはソ連が崩壊して共産党支配が終焉。東ヨーロッパに自由が戻った。一九四四年にルチアに示された司教や聖職者、信徒が十字架のもとで殺害される幻は一九八一年の教皇暗殺未遂のことだったとヨハネ・パウロ二世ご自身が説かれた。ちなみに、ヤシントとフランシスコは今年五月十三日、聖母ご出現百周年の記念日にファチマ大聖堂で列聖された。

その一方で、いつ果てるかもしれない中東諸国での戦闘。国は疲弊し、戦火を逃れたおびただしい難民が各国に溢れて国際問題となつている。ファチマでの聖母出現百周年の今年、聖母の意向にしたがって、紛争国を汚れない聖母の御心に奉獻し、各国の指導者たちの和解と償いのため、ミサはもちろんロザリオを捧げることが求められている。

会と催し (7月)

- 1日(土) 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者 年間第13主日
- 2日(日) 年間第13主日
- 3日(月) 聖トマ使徒
- 6日(木) 頭島光神父霊名
- 8日(土) 聖体礼拝・カテドラル・6時30分 賛美の集い・教区本部・14時
- 9日(日) 年間第14主日
- 11日(火) 坂谷豊光神父命日(2006年)
- 16日(日) 年間第15主日
- 18日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 21日(金) ユゼビウス神父命日(1979年)
- 22日(土) 聖マリア(マグダラ)
- 23日(日) 木村敏彦神父命日(2008年) 年間第16主日
- 25日(火) 聖ヤコブ使徒
- 26日(水) 福崎英雄神父霊名
- 30日(日) 浜田盛茂神父命日(2013年) 年間第17主日

祈りの意向

【祈祷の使徒会】 福音宣教 信仰を見失ったキリスト者たち 日本の教会 夏休みを過ごす人々

統計(教勢報告)についてお断り

教区報6月号には、鹿兒島教区の現況を数字でお知らせする「鹿兒島教区教勢表」を掲載しました。その中で「主日のミサ参加者数」「教会学校」「求道者数」などの項目で人数が「0」としてあります。教会は、もちろん「いない」「実施していない」という意味のものもありますが、各小教区の統計責任者が記載しなかったものも「0」として処理してあります。ご了承ください。(統計担当)

キッペス神父の黙想会
イエスとの関係
7月7日(金) 18時
～9日(日) 16時

溝辺教会(マリア山荘)
 霧島市溝辺町麓3616-4
 TEL.0995-58-2994

参加費: 15,000円(宿泊代・食事代含む)
 ※どなたでも参加できます。
 3日間が無理な方は、1日、2日でも参加可能です。
 申込先: 福沢智子
 TEL.090-2083-9223

神学生の「僕の長崎への道」 日本二十六聖人の道を歩いて (10)

3月6日(日)尾道―三原:約11km

午前9時30分、主日のミサ。四人の子どもたちと侍者を務める。みな、笑顔が愛らしい。

プレデイクアチオ(教話)

の機会が与えられる。これは昨晩、服部神父から「泊まっていたから、そのかわり明日のミサで話をしなさい」と言われてのこと。だが、滅相もない。主日のミサだ。神学生ごときの出る幕じゃない。それでも、一宿一飯の恩義に報いねばなるまい。意を決して壇上に。「いつくしみの特別聖年」とこの日の福音である「放蕩息子の帰還」について考える参考として、「ゆるし」をキーワードに、戦前から終戦までの奄美大島におけるカトリック迫害のエピソードを紹介。「怒りのヒロシマ、祈りのナガサキ、ゆるしのアマミ」と拙

文

芸

俳句

鹿児島純心 川上 和
あじさいや三位の賜物初夏
の手に

純心学園 山頭信子
アベマリア祈る子等の背も
ん白蝶
ファティマの像少ししみあ
りヒアチンタ

吉野教会 徳永ノブ子
マリア像花かんむりに梅雨
めく日
始良教会 川口節子
世を捨てて世俗に生きしキ
リストへの愛

い持論を述べ、窮地を脱する。つくづく僕は、島の信仰に守られていると思う。

午前10時30分過ぎ、倉敷教会を後に。写真撮影を忘れる。侍者の子どもたちと撮ればよかった。

海沿いに行く。これは野中神父、服部神父、Wさん、Fさんの助言による。カトリック中央協議会による経路は山廻り。だが研究者によって、二十六聖人の足取りについてはさまざま。たとえば、フロイス著『日本二十六聖人殉教記』の翻訳者、イエズス会士結城了悟(ディエゴ・パチェコ)神父(前日本二十六聖人記念館長)も海沿いを経路と図示する。実際、二十六聖人の道の正確な行程、詳細な経路は不明、これを忠実に辿ることはできない。

短歌

鹿児島純心 川上 和
かごんまの言葉のあやにザ
ビエルさまうなずき示す十
字架への道
始良教会 川口節子
主に呼ばれ幼な児のごと従
いて救いの真理司祭は伝え
し

鴨池教会 前田儀子
聖地への旅かなはざりし亡
き妹を想ひ木のマリア像や
さしく磨く
雨止みて光射しそめ列福の
ミサの祈りは深く脳にせま
りぬ

曇天。きょうも暑い。上着を脱いで歩く。きのうから、脚は悪いなりに動く。長距離を毎日歩くことに慣れてきたものか。とは言え、痛いものは痛い。午後1時30分、三原教会に着。日頃から親しくしているシスターが僕の歩くのを知って事前に、経路に当たるこの教会に僕の身の世話を依頼していることを聞いていた。だからという訳でもないのだろう、主任司祭のアルナルド神父をはじめ信徒の方々の歓迎が温かい。「昼食は？シャワーを先にしますか？」と細やかな気遣いに恐縮するばかり。シャワー、遅い昼食の後、英語ミサに参列。午後7時のスペイン語ミサにも与る。「ちよっと出かけてきます。可能なら、午後6

時45分に、お聖堂の明かりと暖房をつけておいてほしい」とのアルナルド神父の依頼を受け、そのまま参加した。参列者は、二組のペルー人家族9人と、僕を含め日本人二人だった。「ドライブに行かないか?」。ミサの後、神父が誘う。ワゴン車には一組のペルー人家族。幼子を二人抱えた若い夫婦だ。

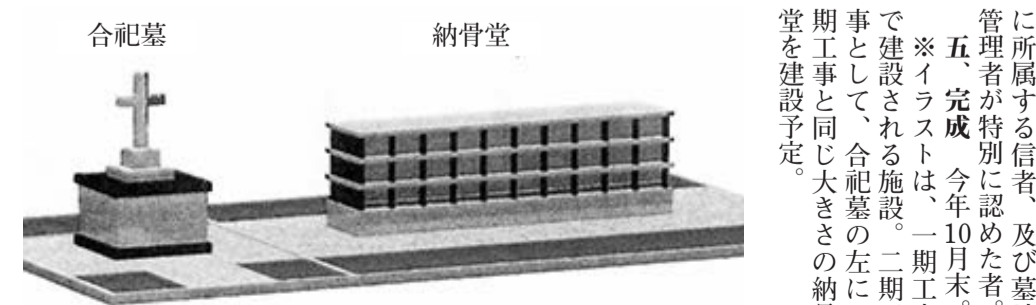
彼らは幸崎に住むという。往路は一時間余り、電車に揺られて教会まで。日曜日の夜は列車の本数も少なく帰りが遅くなるため、復路は神父が車で送るのだと聞いた。「迎えにも行ければよいけど、時間の余裕がないんだ」。運転する神父の横顔を見ながら、「ああ、神父さんだなあ」と感じる神父に久しぶりに出会

ったように思う。遅い夕食後、後片付けが済むと、「寝る前の祈りを一緒にどうですか?」と神父。薪ストーブの傍らの食卓で向かい合い、豆球一つの灯火の下、共に祈る。不思議と安らぐ。神学院で日々営まれる寝る前の祈りの殺伐たること!なぜやうで格好ばかりのそれとはまるで違う。(続く)

使用権利金30万円など決める 6月開催の納骨堂建設委員会

6月13日(火)、教区本部で第6回納骨堂建設委員会が開かれた。設計、建設担当の前迫石材から納骨堂に用いる石の色の組み合わせについて案が出され、決定した後、納骨堂・合祀墓使用規定作成のための基本事項について検討し、以下のことが決められた。

納骨堂:「他人の委託を受けて遺骨・遺品・その他これに類するものを収蔵するための施設」
合祀墓:「他人の委託を受けて一基の墳墓に血縁のない複数の遺骨・遺品・その他これに類するものを収蔵するための施設」
二、収蔵期間
納骨堂:一区画につき、最後の納骨から30年、その後は合祀墓に移す。
合祀墓:他の墓地における合祀墓では、「土に還す」事例があるが、教会でもできるかどうか調べた上で検討する。
三、使用権利金等
納骨堂:使用権利金 30万円、管理費(一括) 10万円。
合祀墓:納骨管理費 10万円。どちらの施設にも墓石への記名費として篆刻(てんこく)料 2万円。
四、使用者の資格
カトリック鹿児島教区



に所属する信者、及び墓地管理者が特別に認められた者。
五、完成 今年10月末。
※イラストは、一期工事で建設される施設。二期工事として、合祀墓の左に二期工事と同じ大きさの納骨堂を建設予定。

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 7月号

日本カトリック正義と平和協議会会長の勝谷太治司教は、「共謀罪」(「組織犯罪処罰法」の改正案)に反対の声明を出しました。(5月24日) 反対の理由は次の四点です。

- ① 今回の法案は、近代の刑法の原則(「内心は処罰しない」という原則、刑罰を科す犯罪

- ② 法案が施行されると捜査機関の捜査範囲が拡大し、プライバシーの侵害・監視社会の作出になること
- ③ 仲間うちでの密告を奨励し、社会の中に深刻な相互不信を作り出すこと
- ④ 監視社会では、市民活動の萎縮が生じ、憲法が保障する思想、信条、信教の自由、集会・結社の自由が破壊されかねないこと

「人間相互の信頼に基づ

まず、今の憲法が保障している「信教の自由」と「政教分離の原則」を正確に理解した上で、これを侵害する政策・法案には、福音の視点からきつぱりと反対することが必要です。(2007年日本カトリック司教団メッセージ) 信教の自由は、精神的自由権を確立するための推進力であり、「人権宣言の花形」とされる重要な基本的人権です。また政教分離とは、国家から特権を受ける宗教を禁止し、国家の宗教的中立性を意味します。(日本国憲法20条) この原則は、宗教団体の政治活動を禁止した制度ではありません。明治憲法は

定例会の案内 (毎月第3土曜日) 日時 7月15日(土曜日) 13時~15時 場所 教区本部 内容 ①主の祈り ②情報交換 ③放射線から身を守るためにどうするか。